SMAM・バランスファンドVA安定成長型＜適格機関投資家限定＞

【投信協会商品分類】追加型投信／内外／資産複合

①主としてわが国の公社債、国内株式インデックス・マザーファンド（B号）受益証券、外国株式インデックス・マザーファンド受益証券および外国債券パッシブ・マザーファンド受益証券に投資することにより、収益機会の拡大とリスクの低減効果を狙い、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

②基本資産配分比率は下記の通りです。ただし、それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。

株　式		30%	債　券		70%
	国　内	20%		国　内	65%
	外　国	10%		外　国	5%

③直接投資による債券の運用については、わが国の公社債を主要対象とし、信用度、流動性に留意しつつ、中長期的な観点を重視した安定的な利息収入の確保を目指します。但し、わが国の公社債と比較して、投資妙味があると判断される場合には、信託財産の純資産総額の20%を限度として海外の公社債へ投資することがあり、その場合には原則として為替ヘッジを行います。

● 基準価額および純資産総額

	6月30日	前月比
基準価額（円）	18,683	187
純資産総額（百万円）	700	-54

※基準価額は1万口当りに換算した価額です。

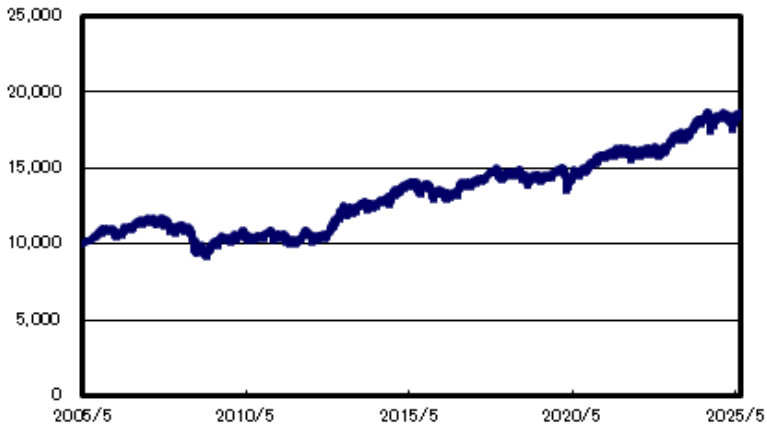
● 騰落率

	基準日	騰落率
1ヵ月	2025.5.30	1.01%
3ヵ月	2025.3.31	2.59%
6ヵ月	2024.12.30	0.39%
1年	2024.6.28	0.87%
3年	2022.6.30	16.62%
設定来	2005.5.19	86.83%

※ 騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後です。
※ 上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

● 基準価額の推移

（ファンド設定日　2005.5.19 ）



■ 基準価額は、信託報酬控除後です。当ファンドの信託報酬は年率0.308%（税抜き0.28%）です。
■ 上記ｸﾞﾗﾌは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。

● 資産構成

	比率	基準資産配分
国内株式インデックス・マザーファンド（B号）	20.1 %	20 %
外国株式インデックス・マザーファンド	9.7 %	10 %
株式合計	29.9 %	30 %
国内債券	64.4 %	65 %
外国債券パッシブ・マザーファンド	4.8 %	5 %
債券合計	69.2 %	70 %
現預金等	0.9 %	-
合　計	100.0%	100%

★ 大樹生命からのお知らせ
●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている投資信託の運用状況に関するものです。したがいまして、特別勘定のユニット価格等につきましては「特別勘定の運用概況」をご覧ください。また、ご契約者さまご自身のご契約内容につきましては、年4回郵送される「ご契約内容のお知らせ」をご覧ください。●当ページの運用実績に関する内容は全て過去の実績を示すものであり、将来の運用実績を保証もしくは予想するものではありません。●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている当投資信託を運用する三井住友DSアセットマネジメント株式会社が、当投資信託の運用報告として大樹生命宛に作成したものをもとに、大樹生命が提供するものであり、大樹生命がその正確性・完全性を保証するものではありません。●当投資信託は、大樹生命の変額商品において投資対象としているものであり、お客さまが当投資信託を購入・保有するということではありません。

■このレポートの内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、運用実績等に関するグラフ・数値等は過去の実績を示すものであり将来の運用成果をお約束するものではありません。■当ファンドは、直接またはマザーファンド受益証券を通じて、株式等値動きのある証券（外国証券には為替リスクもあります）に投資しますので基準価額は変動致します。■投資信託は、元本や利回りが保証されているものではありません。■投資した資産の価値の減少を含むリスク（価格変動リスク、為替リスク、信用リスク等）は、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。

三井住友DSアセットマネジメント

作成基準日： 2025年6月30日

【国内債券】

●資産構成 ※1

	6月30日
債券現物	64.4%
先物等	0.0%
合 計	64.4%
平均残存年数（年） ※2	1.82
平均利回り ※2	0.71%

● 満期構成 ※2

1年未満	0.0%
1-3年	95.0%
3-5年	5.0%
5-7年	0.0%
7-10年	0.0%
10年以上	0.0%
合 計	100.0%

● 種別構成 ※2

国債	100.0%
政府保証債	0.0%
地方債	0.0%
金融債	0.0%
事業債	0.0%
円建外債	0.0%
その他	0.0%
合 計	100.0%

● 上位組入銘柄 ※1 （組入全銘柄数 8 ）

	銘柄名	比率
1	469 2年国債	18.6%
2	470 2年国債	15.8%
3	473 2年国債	11.4%
4	472 2年国債	10.0%
5	471 2年国債	5.0%
6	164 5年国債	2.7%
7	174 5年国債	0.6%
8	467 2年国債	0.3%
9		
10		
上 記 合 計		64.4%

● 組入債券収益率 ※2

	基準日	収益率
1ヵ月	2025.5.30	0.14%
3ヵ月	2025.3.31	0.63%
6ヵ月	2024.12.30	0.02%
1年	2024.6.28	-0.05%
3年	2022.6.30	-0.56%
設定来	2005.5.19	14.22%

※1 純資産総額対比
※2 現物債券評価額対比

● ファンドマネージャーコメント（国内債券）

国内の長期金利（10年国債利回り）は低下しました。
上旬は、米関税政策に対する懸念が再燃する中で米国の経済指標が下振れし、米国金利が低下した局面で国内金利は低下しました。中旬には、イスラエルがイラン核関連施設への攻撃を行ったことでリスク回避の動きとなり、国内金利は当初一段と低下しました。しかし、両国の対立を背景に原油価格の上昇が進むと、世界的にインフレへの懸念が高まり、内外で金利が上昇する場面も見られました。その後は、金融政策決定会合後に日銀総裁が政策変更に慎重な姿勢を維持したことや、イスラエルとイランが停戦で合意し原油価格が下落したこと等から、金利は低位での推移を継続しました。

＜運用経過＞
デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、金利低下した中旬以降、段階的に短期化しました。

＜市場見通し＞
国内景気は米国の関税措置による下押し圧力がかかるものの、賃金上昇による消費の下支えや企業の設備投資需要の下、各国の貿易交渉の進展次第ながら先行きは成長軌道に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、コストプッシュ圧力の減衰が見込まれる一方で賃金上昇に伴いサービス価格が上昇することにより、教育無償化の拡充による一時的な下押しの影響を除けば、＋2%程度の伸び率を維持できる見通しです。米国の政策運営やグローバル景気の先行きに対する不確実性が高いことは、金利の低下要因です。一方で、日銀は足元では様子見姿勢を続けているものの、先行きは利上げ姿勢に戻ることが見込まれます。金利先高観の継続で国内金利は低下方向には進みにくく、米国と各国の貿易交渉が進む際には上昇圧力がかかる見通しです。

＜今後の運用方針＞
デュレーションは金利水準を勘案しつつ調整し、中長期的に安定的なパフォーマンスの獲得を目指します。

★ 大樹生命からのお知らせ
●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている投資信託の運用状況に関するものです。したがいまして、特別勘定のユニット価格等につきましては「特別勘定の運用概況」をご覧ください。また、ご契約者さまご自身のご契約内容につきましては、年4回郵送される「ご契約内容のお知らせ」をご覧ください。●当ページの運用実績に関する内容は全て過去の実績を示すものであり、将来の運用実績を保証もしくは予想するものではありません。●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている当投資信託を運用する三井住友DSアセットマネジメント株式会社が、当投資信託の運用報告として大樹生命宛に作成したものをもとに、大樹生命が提供するものであり、大樹生命がその正確性・完全性を保証するものではありません。●当投資信託は、大樹生命の変額商品において投資対象としているものであり、お客さまが当投資信託を購入・保有するということではありません。

作成基準日 ： 2025年6月30日

【国内株式：国内株式インデックス・マザーファンド（B号）】

● 基準価額および純資産総額

	6月30日	前月比
基準価額（円）	52,194	1,007
純資産総額（百万円）	391,610	11,030

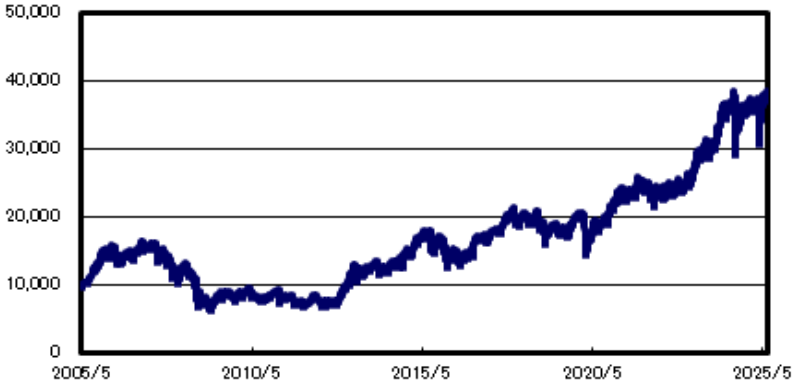
※基準価額は1万口当りに換算した価額です。

● 騰落率

	基準日	ファンド	ﾍﾞﾝﾁﾏｰｸ(＊)
1ヵ月	2025.5.30	1.97%	1.96%
3ヵ月	2025.3.31	7.54%	7.52%
6ヵ月	2024.12.30	3.84%	3.83%
1年	2024.6.28	4.13%	4.10%
3年	2022.6.30	64.43%	64.32%
設定来	2005.5.19	285.71%	282.40%

※ 上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

● 基準価額の推移 （ファンド設定日 2003.2.17 ）



■ 基準価額は、2005. 5. 19を10000として指数化しております。
■ 上記グラフは過去の実績を示したものであり、将来の成果をお約束するものではありません。
＊当ファンドはＴＯＰＩＸ（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとします。
ＴＯＰＩＸは、株式会社ＪＰＸ総研または株式会社ＪＰＸ総研の関連会社（以下「ＪＰＸ」といいます。）が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はＪＰＸに帰属します。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

● 資産構成 ※1

	6月30日
株式	98.1%
先物等	1.9%
現預金等	0.0%
合　計	100.0%

● 上位組入業種 ※2

	業種名	比率
1	電気機器	17.9%
2	銀行業	8.8%
3	情報・通信業	8.2%
4	卸売業	6.8%
5	輸送用機器	6.7%
6	機械	6.1%
7	小売業	4.9%
8	化学	4.8%
9	サービス業	4.5%
10	医薬品	4.0%
	その他	27.3 %
	合　計	100.0%

● 上位組入銘柄 ※1 （組入全銘柄数 1,635 ）

	銘柄名	比率
1	トヨタ自動車	3.2%
2	ソニーグループ	3.1%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.0%
4	日立製作所	2.6%
5	任天堂	2.1%
6	三井住友フィナンシャルグループ	1.8%
7	リクルートホールディングス	1.6%
8	三菱重工業	1.5%
9	東京エレクトロン	1.4%
10	キーエンス	1.4%
	その他	76.2%
	合　計	98.1%

※1 マザーファンド純資産総額対比
※2 マザーファンド現物株式評価額対比

● ファンドマネージャーコメント（国内株式）

国内の株式市場は上昇しました。
上旬は、米中貿易摩擦をめぐる警戒感が強まったものの、その後、米中首脳の電話協議を受けて交渉進展期待が高まり、一進一退の動きとなりました。中旬は、イスラエルによるイラン核関連施設攻撃を受けて中東情勢が緊迫化したことを嫌気する場面があったものの、米ドル高・円安が進んだことなどから、もみ合う展開となりました。下旬は、イスラエル・イラン停戦合意、米国の早期利下げ期待、米ハイテク株高を好感し、年初来高値を更新しました。
業種別では、その他製品、証券・商品先物取引業、機械などが市場をアウトパフォームした一方、輸送用機器、海運業、鉄鋼などがアンダーパフォームしました。

＜運用経過＞
最適化法によるパッシブ運用を継続しました。

★ 大樹生命からのお知らせ
●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている投資信託の運用状況に関するものです。したがいまして、特別勘定のユニット価格等につきましては「特別勘定の運用概況」をご覧ください。また、ご契約者さまご自身のご契約内容につきましては、年4回郵送される「ご契約内容のお知らせ」をご覧ください。●当ページの運用実績に関する内容は全て過去の実績を示すものであり、将来の運用実績を保証もしくは予想するものではありません。●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている当投資信託を運用する三井住友DSアセットマネジメント株式会社が、当投資信託の運用報告として大樹生命宛に作成したものをもとに、大樹生命が提供するものであり、大樹生命がその正確性・完全性を保証するものではありません。●当投資信託は、大樹生命の変額商品において投資対象としているものであり、お客さまが当投資信託を購入・保有するということではありません。

三井住友DSアセットマネジメント

作成基準日 ： 2025年6月30日

【外国株式：外国株式インデックス・マザーファンド】

● 基準価額および純資産総額

	6月30日	前月比
基準価額（円）	101,274	4,600
純資産総額（百万円）	1,006,792	49,904

※基準価額は1万口当りに換算した価額です。

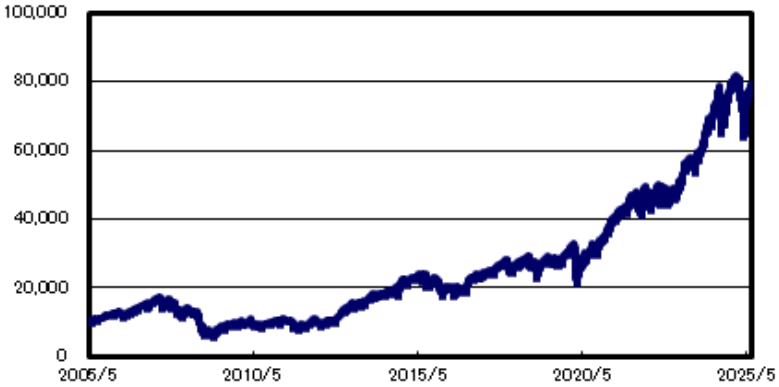
● 騰落率

	基準日	ファンド	ﾍﾞﾝﾁﾏｰｸ(＊)
1ヵ月	2025.5.30	4.76%	4.79%
3ヵ月	2025.3.31	7.58%	7.70%
6ヵ月	2024.12.30	-1.52%	-1.34%
1年	2024.6.28	4.08%	4.40%
3年	2022.6.30	75.03%	76.33%
設定来	2005.5.19	693.68%	723.92%

※ 上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

● 基準価額の推移

（ファンド設定日 2003.5.19 ）



■ 基準価額は、2005.5.19を10000として指数化しております。
■ 上記グラフは過去の実績を示したものであり、将来の成果をお約束するものではありません。
＊当ファンドはＭＳＣＩコクサイインデックス（配当込み、円ベース）をベンチマークとします。ＭＳＣＩコクサイインデックス（配当込み、円ベース）はMSCI Inc.が開発・公表する指数を当社が独自に円換算したものです。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

● 資産構成 ※1

	6月30日
株式	98.4%
先物等	1.8%
現預金等	-0.2%
合　計	100.0%

● 国別投資比率 ※2

アメリカ	73.5%
イギリス	3.8%
カナダ	3.4%
スイス	2.8%
ドイツ	2.7%
その他	13.8%
合　計	100.0%

● 上位組入銘柄 ※1

（組入全銘柄数 1,143 ）

	銘柄名	国名	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.3%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.9%
3	APPLE INC	アメリカ	ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾊｰﾄﾞｳｪｱ・機器	4.2%
4	AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財･ｻｰﾋﾞｽ流通･小売り	3.0%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカ	メディア・娯楽	2.2%
6	BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.7%
7	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	1.4%
8	TESLA INC	アメリカ	自動車･自動車部品	1.3%
9	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	1.2%
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	1.1%
	その他			72.0%
	合　計			98.4%

※1 マザーファンド純資産総額対比
※2 マザーファンド現物株式評価額対比（外貨建リートを含む）

● ファンドマネージャーコメント（外国株式）

米国株式市場は上昇しました。上旬は、堅調な雇用統計や米中間の通商協議進展への期待が市場の下支え要因となりました。中旬には、イスラエルがイラン核関連施設に対する攻撃を行い、中東情勢のさらなる深刻化懸念で株式市場は下落しました。原油価格の上昇によるインフレ再燃も懸念される中、FOMC（米連邦公開市場委員会）では利下げは見送りとなりました。下旬には、米国の介入によりイスラエルとイランが停戦で合意し、原油価格も下落したことから、株式市場は再び上昇しました。

欧州株式市場は下落しました。ECB（欧州中央銀行）が利下げを実施しましたが、中旬には、中東情勢の深刻化や原油価格の上昇が大きな懸念材料となりました。下旬には、停戦合意を受けて原油価格も急落し、株式市場は下落幅を一部取り戻しました。

（為替）米ドル/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。月前半は、米雇用統計が警戒されたほど悪化しなかったものの、インフレ指標が市場予想を下回ったことから、もみ合いの展開となりました。月後半は、米国によるイランの核施設への爆撃を受けて一時米ドル高・円安となりましたが、その後イスラエル・イランの停戦合意や米国の早期利下げ期待から下落しました。

ユーロ/円は上昇しました。月前半は、米国のインフレ指標が予想を下回ったことから、ユーロ高・米ドル安の展開となりました。中東情勢の緊迫化を受けて一時米ドルが上昇したものの、月末にかけて、中東情勢が落ち着いたことや米独の金利差が縮小したことから、ユーロ高・米ドル安となりました。米ドル/円が概ね横ばいとなったことから、月を通してユーロ高・円安となりました。

＜運用経過＞
最適化法によるパッシブ運用を継続しました。

★ 大樹生命からのお知らせ
●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている投資信託の運用状況に関するものです。したがいまして、特別勘定のユニット価格等につきましては「特別勘定の運用概況」をご覧ください。また、ご契約者さまご自身のご契約内容につきましては、年4回郵送される「ご契約内容のお知らせ」をご覧ください。●当ページの運用実績に関する内容は全て過去の実績を示すものであり、将来の運用実績を保証もしくは予想するものではありません。●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている当投資信託を運用する三井住友DSアセットマネジメント株式会社が、当投資信託の運用報告として大樹生命宛に作成したものをもとに、大樹生命が提供するものであり、大樹生命がその正確性・完全性を保証するものではありません。●当投資信託は、大樹生命の変額商品において投資対象としているものであり、お客さまが当投資信託を購入・保有するということではありません。

三井住友DSアセットマネジメント

作成基準日： 2025年6月30日

【外国債券：外国債券パッシブ・マザーファンド】

● 基準価額および純資産総額

	6月30日	前月比
基準価額（円）	23,345	560
純資産総額（百万円）	194,691	4,406

※基準価額は1万口当りに換算した価額です。

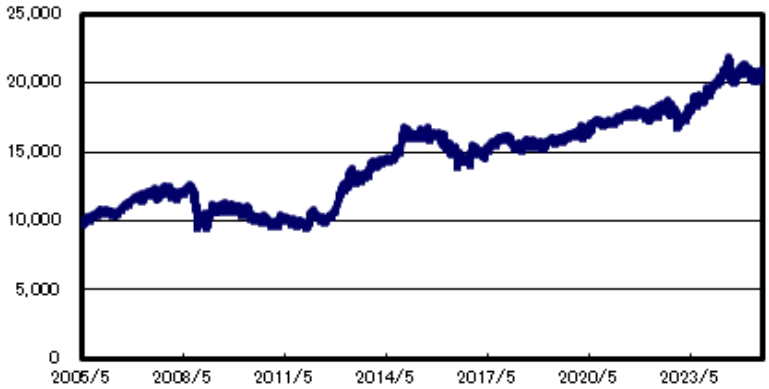
● 騰落率

	基準日	ファンド	ﾍﾞﾝﾁﾏｰｸ(＊)
1ヵ月	2025.5.30	2.46%	2.44%
3ヵ月	2025.3.31	1.26%	1.24%
6ヵ月	2024.12.30	-1.72%	-1.74%
1年	2024.6.28	-2.65%	-2.77%
3年	2022.6.30	15.03%	15.16%
設定来	2005.5.19	109.99%	112.22%

※ 上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

● 基準価額の推移

（ファンド設定日 2003.12.18 ）



■ 基準価額は、2005.5.19を10000として指数化しております。
■ 上記ｸﾞﾗﾌは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
＊当ファンドはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）をベンチマークとします。FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCの開発した指数を当社が独自に円換算したものです。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

●資産構成 ※1

	6月30日
債券現物	98.9%
先物等	0.0%
現預金等	1.1%
合 計	100.0%
平均残存年数（年）	8.09
平均利回り	3.35%

● 満期構成 ※2

1年未満	0.2%
1-3年	29.1%
3-5年	21.4%
5-7年	13.1%
7-10年	13.7%
10年以上	22.5%
合 計	100.0%

※1 マザーファンド純資産総額対比
※2 マザーファンド現物債券評価額対比

● 通貨別構成比 ※2

アメリカドル	45.4%
ユーロ	30.7%
中国元(オフショア)	11.4%
イギリスポンド	5.8%
カナダドル	1.9%
その他	4.9%
合 計	100.0%

● 上位組入銘柄 ※1

（組入全銘柄数 882 ）

	銘柄	通貨	比率
1	CHINA GOVERNMENT BOND 2.39 11/15/26	中国元(オフショア)	0.8%
2	CHINA GOVERNMENT BOND 2.04 02/25/27	中国元(オフショア)	0.6%
3	US TREASURY N/B 4.25 11/30/26	アメリカドル	0.6%
4	CHINA GOVERNMENT BOND 3.72 04/12/51	中国元(オフショア)	0.6%
5	CHINA GOVERNMENT BOND 2.69 08/12/26	中国元(オフショア)	0.5%
6	US TREASURY N/B 3.875 08/15/34	アメリカドル	0.4%
7	US TREASURY N/B 4.125 11/15/32	アメリカドル	0.4%
8	US TREASURY N/B 4.375 05/15/34	アメリカドル	0.4%
9	US TREASURY N/B 4.25 11/15/34	アメリカドル	0.4%
10	CHINA GOVERNMENT BOND 2.4 07/15/28	中国元(オフショア)	0.4%
	その他		93.7%
	合 計		98.9%

● ファンドマネージャーコメント（外国債券）

米国では、長期金利（10年国債利回り）は低下しました。上旬は、経済指標が強弱混在となる中、一進一退となりました。その後も、インフレ指標が市場予想を下回ったことが金利低下要因となった一方で、イスラエル・イランの交戦を受けて原油価格が急騰したことが金利上昇要因となり、一進一退の展開が続きました。FOMC（米連邦公開市場委員会）は市場の想定ほどハト派（景気を重視する立場）的とは捉えられなかったものの、月末にかけて、FRB（米連邦準備制度理事会）高官のハト派的な発言から早期利下げ期待が高まったことなどを背景に金利は低下しました。

ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は上昇しました。上旬にECB（欧州中央銀行）が予想通り利下げを実施したものの、ラガルド総裁が利下げサイクルの終了が近いことを示唆し、金利は上昇しました。その後は、米金利に追随する動きとなったものの、月末にかけて、防衛費の引き上げによる財政悪化懸念などから、金利は上昇しました。

（為替）米ドル/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。月前半は、米雇用統計が警戒されたほど悪化しなかったものの、インフレ指標が市場予想を下回ったことから、もみ合いの展開となりました。月後半は、米国によるイランの核施設への爆撃を受けて一時米ドル高・円安となりましたが、その後イスラエル・イランの停戦合意や米国の早期利下げ期待から下落しました。

ユーロ/円は上昇しました。月前半は、米国のインフレ指標が予想を下回ったことから、ユーロ高・米ドル安の展開となりました。中東情勢の緊迫化を受けて一時米ドルが上昇したものの、月末にかけて、中東情勢が落ち着いたことや米独の金利差が縮小したことから、ユーロ高・米ドル安となりました。米ドル/円が概ね横ばいとなったことから、月を通してユーロ高・円安となりました。

＜運用経過＞

運用方針の通り、リスクを抑えたパッシブ運用を継続しました。

★ 大樹生命からのお知らせ
●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている投資信託の運用状況に関するものです。したがいまして、特別勘定のユニット価格等につきましては「特別勘定の運用概況」をご覧ください。また、ご契約者さまご自身のご契約内容につきましては、年4回郵送される「ご契約内容のお知らせ」をご覧ください。●当ページの運用実績に関する内容は全て過去の実績を示すものであり、将来の運用実績を保証もしくは予想するものではありません。●当ページは、大樹生命の変額商品において投資対象としている当投資信託を運用する三井住友DSアセットマネジメント株式会社が、当投資信託の運用報告として大樹生命宛に作成したものをもとに、大樹生命が提供するものであり、大樹生命がその正確性・完全性を保証するものではありません。●当投資信託は、大樹生命の変額商品において投資対象としているものであり、お客さまが当投資信託を購入・保有するということではありません。

三井住友DSアセットマネジメント